

ピレリ・スーパー耐久シリーズ 2019
第4戦 オートポリス



東 徹次郎
TOHJIRO AZUMA

アクシデントやトラブルに苦しんだ大荒れの決勝！！

予選はチーム最高位も決勝は10位と悔しい結果に！！

- ・開催サーキット：オートポリス（4.674km）
- ・レース時間：5時間
- ・チーム：T's concept
- ・マシン：T's concept 86 (TOYOTA86)
- ・カーナンバー：#28
- ・クラス：ST-4
- ・ドライバー：A 東 徹次郎 B DAISUKE C 小高 一斗



公式予選（7月20日）

◆Weather：曇り ◆Course：ドライ

今回のレースからダンパーのメーカーも変わり、まだまだセットアップの面では手探りの部分もありますが、3人とも良い手応えで予選を迎えることが出来ました。

今回練習では天候も悪かったため、自分はこの予選で今回初めて New タイヤを履きました。

コースインしてすぐに、まず位置取りを考えて走行しました。

今回非常に序盤が密集していたため、884号車と共に計測1周目もタイヤを温存しながらスロー走行して空いたスペースを探しました。

そして884号車に合わせるかたちで計測2周目からアタックへ。

1コーナーは非常に良い感じでクリア出来て、その勢いで2コーナーを立ち上がるとライン上にまさかの落下物が。

少しアウトに避けるかたちになり3コーナーの進入が若干ロスしてしまいました。

しかしこの計測は自己ベストの6秒台に入りました。

次の周もそのままアタックしましたが、1回目のアタックに僅かに及ばないタイムでした。

ここで一度クーリングを入れて、再度アタックに行きましたが、序盤でタイヤのタレを感じたので、そこでアタックを止めてピットに戻りました。

クラス3位にあと0.1秒という僅差のクラス4位でAドライバー予選を終えます。

Bドライバー予選のDAISUKE選手も自己ベストタイムを大きく更新する過去最高に良い走りで、クラス6位で予選を終えます。

これにより、A・B合算でチームの予選でのベストリザルトとなるクラス4位を獲得します。

Cドライバー予選ではいきなり天候が悪化しウェットになりましたが、ウェットでのバランスも良さそうで、小高選手がクラス上位で予選を終えました。

予選結果：4位 4'14.859 (A・B合算タイム)

A：2'06.632 B:2'08.227

決勝（7月21日）

◆Weather：雨 ◆Course：ウェット

5時間の決勝はスタート前から天候も不安定な為、自分がスタートを担当することになりました。

スタート時は乾いていきそうな状況でしたがまだ路面は濡れていたため、レインタイヤでスタートします。

1周目の1コーナーは3位争いをするも、ポジションキープの4位に落ち着きました。

レインタイヤでの手応えも良かったので、このままトップ3にまずはついて行こうと思っていた矢先の第2ヘアピン。

旋回中、116号車にリアをプッシュされてなすすべなくスピンしてしまいました。

これにより116号車には後にペナルティーが下されるも、我々にとってはやられ損の最悪なアクシデントとなりました。

このスピンで全体の最後尾まで落ちてしまいます・・・。

幸いにもマシンにダメージが無かったので、切り替えてここから追い上げモードに。

ST-5クラスの集団を抜き終えてST-4クラスの下位グループに追い付いたところで、スリックタイヤに交換する為に早々にピットへ。

ここで小高選手と交代します。

小高選手はここから2時間のロングステイントです。

ドライだったり、雨が降ってくるもギリギリスリックでも行けるウェットだったり、と難しいコンディションの中、トップと変わらない非常に良いペースで走ってくれました。

小高選手の頑張り、ピットイン直前にはクラス3位まで上がっていました。

まだドライで行けそうだったので、次にDAISUKE選手へと交代します。

DAISUKE選手も前日の予選の勢いそのままに、走り出しから良いペースでした。

しかしここで問題が発生してしまいます。

ドライバー交代の際に前に乗っていた小高選手のトランスポンダーをメカニックさんが車内に落としてしまったようで、そのポンダーがまだ車内にあるため、回収のために緊急ピットインとなったのです。

残り時間が2時間くらいだったため、予定より早くここでまた自分が乗り込みます。

ここからチェッカーまでのロングステイントの予定でした。

トップが 8 秒台で走る中、フル満タンでのスリックタイヤでのバランスも良くすぐに 9 秒台前半に入ったので、ここからペースを上げて最後まで追いついていこうと手応えを感じていた矢先、またもアクシデントが。

無線でピットアウト時の排気の音が少し大きいから、少し排気系のトラブルが出ているかもと無線が入りました。

確かに、注意して聞いているとアクセルオンのときに若干音が大きいなと感じてはいたので、何か大きく変化したらエンジンを壊す前に気付かなければとは思いました。

そしてその無線から 2 周後くらいでした。

いきなりストレートエンドで音が大きくなりパワーも少し無くなった気がしたので、スローに落として緊急ピットインしました。

マフラーの一部が割れてしまっていました。

この交換作業で事実上勝負権を失ってしまいました。

ただ、メカニックさんたちの迅速な作業により 20 分程で修復出来たので、再び DAISUKE 選手へ交代します。

しかし、今度はコースインしてそんな時間が経たないうちに、決勝始まってから一番の雨量に。

これでまたレインタイヤへ交換のためにピットへ戻ってきます。

ここで自分が再び乗り込み、コースへ。

この雨は本当に激しい雨量で、各コーナーでドロプレーニングになっていて、一瞬の油断が命取りになる感じでした。

コースアウト車両やクラッシュ車両も発生し、フルコースイエローになります。

そして霧も発生してきたため、セーフティーカーランへ移行します。

このとき先程乗った際には感じなかった、ブレーキを踏んだ際の大きなジャダーが発生していて、マシンに振動も出てしまうほどだったので、安全のためにピットへ戻り、ブレーキローターを交換しました。

結局この後セーフティーカーランのまま走行が続き、霧が更に酷くなったので赤旗でレースは終了となりました。

終盤トラブルでのピットストップを余儀なくされたので、最終的な結果はクラス 10 位でした。

決勝結果：10 位（自己ベストタイム：2'09.280）



反省

まず、今回から新しくなったダンパーのフィーリングが良かったのが、後半戦に向けて大きなプラス要素です。

予選もセクター1はトップタイムだったのですが、セクター3で大きくロスしてしまいました。

後半セクションでは少し行き過ぎていた部分もあるので、そういった自分自身のドライビングの面も次戦のもてぎでは修正したいと思います。

ここ数戦、Aドライバー予選も上位に入ってこられるようになってきているので、しっかり次戦もマシン、ドライビング、両方を仕上げられるようにします。

決勝はスピードがあっただけにアクシデントやトラブルが本当に残念でした。

ブレーキもマフラーも雨による急激な温度変化がトラブルの原因の一つなので、チームやメーカーに次戦までに問題を解決してもらいたいと思います。

確実にマシン、ドライバーと速さが出てきてはいるので、次戦こそその速さを結果に結び付けていけるように努力していきます。



最後に

今回のレースもたくさんのご支援ご声援、有難うございました。
今回のレースは天候も大荒れで本当にタフなレースとなりました。
予選の結果は本当にポジティブで、チームとして一つレベルアップしたと思います。

ただ、マシントラブルが多いのも事実なので、もう後半戦ですしラスト2レースはノートラブルで走れるようチームにも更に頑張ってもらいたいと思います。

次戦こそベストリザルトを残せるよう、表彰台へ上がれるように頑張ります。

次戦は9月14、15日にツインリンクもてぎとなります。

全力で頑張りますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2019年7月29日

東 徹次郎

